

# 28AA-am08S

抗腫瘍性マクロライド FD-891 および FD-892 の系統的合成研究 (2) マクロラク  
トン部の構築

○板垣 友宏<sup>1</sup>, 川又 綾乃<sup>1</sup>, 宮崎 雄太<sup>1</sup>, 八幡 健三<sup>1</sup>, 叶 直樹<sup>1</sup>, 岩淵 好治<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>東北大院薬)

【目的】FD-891 (**1**) は FD-892 (**2**) と共に放線菌 *Streptomyces graminofaciens* A-8890 から単離された抗腫瘍性 16 員環マクロライドである。我々は **1**、**2**、および類縁体の系統的合成法の確立と **1** の生物活性発現メカニズムの解明を目指して研究を行っている。

今回、**1** および **2** のマクロラクトン骨格の立体選択的構築に成功したので報告する。

【方法・結果】アルデヒド **3a, b** の vinylogous 向山アルドール反応により C<sub>6</sub>, C<sub>7</sub> 位に望みの立体化学を有する付加体 **5a, b** を高立体選択的に得た。**5a** より導いたエステル **6a** に対し Sharpless エポキシ化反応を試みたところ、望みの **7a** が優先的に得られた。**7a, 6b** から誘導した **9a, b** の閉環メタセシス反応 (RCM) は円滑に進行し、望ましい C<sub>12</sub>-C<sub>13</sub> E-オレフィン を有する環化体 **10a, b** を得た。

